

町並みが現存する理由

明治期以降の建築物が点在!

この辺りは天保9年(1838)に全焼率95%超の大火災があり、その後も明治中期までに大きな火事は何度かありましたがそれ以降はなく、戦災被害も免れました。その後、大規模な都市計画事業も行われていないことから、この地には明治期以降の建築物が多く残っているのです。



当時の面影残る... 脇道にも注目!

ノスタルジックな路地と水路

旧北陸街道沿いはかつての宿場町の名残りで、間口が狭く奥に長い町屋建築が多く見られます。さらに大通りから一歩入れば、江戸時代から残る狭く細い路地や、縦横無尽に走る水路にも出会える。古き時代にタイムスリップした感覚が味わえるかも。



注意! 多くの人が生活している地域であるため、散策の際は近隣住民の方に迷惑にならないよう社会通念上のマナーに留意するべし。



E 滑川水陣跡(水陣遊園)
火災により建物は残っていない。跡地は公園(本陣遊園)になっている。

D 中川河口
江戸時代から昭和前期にかけて、米をはじめとした物資の集散場所であった。

C 廣野家
当初は玄圃の水路に橋を架け、川に囲まれていたことから「四川亭」と呼ばれていた。

B 宮崎酒造・有隣庵
かつて商家が連なり賑わいを見せていた瀬羽町通り

A 養照寺
境内で唯一、江戸時代の本陣の姿がそのまま残る

おきめコース
かつての繁華街を歩く
江戸〜昭初期にかけて滑川の政治、経済、文化の中心地であった瀬羽町・橋場・大町周辺。当時の雰囲気が残るエリアを歩こう。



F 宝川宗左衛門商店米倉
境内寄最大約200名の人々が押し寄せた商店の倉庫

E 滑川館
当時は滑川町長加藤嘉右衛門邸であった

D 廣野家
敷石名が押し寄せた当時の滑川米肥会社取締役宅

C 滑川銀行米倉
当時、この周辺には多くの米倉が建ち並んでいた

B 渡邊眞四郎宅
人々が賑に押し寄せた当時の米部商宅

A 青藤仁左衛門宅
人々が賑に押し寄せた場所の一つ

おきめコース
滑川から全国へ!
米騒動の足跡を辿る
大正7年(1918)、滑川でおきたことをきっかけに全国に広がったとされる米騒動。当時の町並みが残る地区を歩いてみよう。



F 和田の浜の夕日
知らないかミュージアムの海岸は知る人ぞ知る絶景夕日スポット!

E ホタルイカマツボール散策
ホタルイカ産地の滑川。マツボールの殻もホタルイカ!

D ホタルイカ群遊海面
季節によっては定置網が肉眼で見られる

C さらしや商店街
昭和の雰囲気が残るストリート

B 橋場から眺望する立山連峰
天候によるため、美しく見える日は運がいい!

A 瀬羽町散策
歴史情緒あふれる町のカフェやショップを楽しんで

おきめコース
イカむたスホットめぐり
景観重視!
ゆるりと町を散策したい方におすすめのコース。フォト撮影を楽しみながら巡ろう!

登録文化財が点在する 旧北陸街道を歩いてみるべし!

16世紀初頭には滑川に街並みができていたと考えられています。北陸街道沿いに大町、狭町(現・瀬羽町)、新町(現・荒町)が形成され、江戸時代には宿場町「滑川宿」となって人の往来や物流で賑わい、年貢米や特産品が集まり、多くの商工業者が軒を連ねました。江戸中期以降は売業業の天拠点に。現在でも旧北陸街道沿いには伝統的な町屋建築や社寺が点在し、歴史情緒あふれる町並みが残っています。

北陸街道とは 越中国を東西に横断する江戸時代の街道のこと。北陸道、北國街道、北国往還などの呼び方もあるが本冊子では「旧北陸街道」とします。

なめりかわ旧街道周辺 主な催し案内

滑川のネブタ流し
◆7月31日
海岸で大たいまつに火をつけて海に流し人々の無病息災を祈願する禊の行事。

ふるさと龍宮まつり
◆7月中旬
滑川市最大の夏祭り。市民による伝統芸能「新川古代神」の街流しなどで賑わいます。

なめりかわランタนมつり
◆8月
旧宮崎酒造および瀬羽町周辺に数百個のランタンが飾られ、旧街道が幻想的な街並みに。

海上花火大会
◆7月中旬
「ふるさと竜宮まつり」の二日目に開催。県内唯一である「正三尺玉」が打ち上げられます。

